九皐会 若竹能

異国をテーマにした能を上演。

東方朔
項羽
楊貴妃
一角仙人

第１日 令和４年 ２月 27日（日）
午後１時開演（午後 12時30分開場）

第２日 令和４年 ７月 24日（日）
午後１時開演（午後 12時30分開場）

【神楽坂・矢来能楽堂】

駒瀬 直也（こませ なおや）
「一角仙人」シテ

1954年生。
（公社）能楽協会（公社）観世九皐会
三世観世喜之に師事
「能楽 BASARA」「龍雲会」主宰
石橋 1984年　道成寺 1987年
翁 1995年　求塚 2007年
正尊 2008年　卒都婆小町 2013年
日本能楽会会員（重要無形文化財総合指定）

小島 英明（こじま ひであき）
「楊貴妃」シテ

1970年生。
（公社）能楽協会（公社）観世九皐会
三世観世喜之に師事
「碧風会」（小島英明能の会）「皐風会」主宰
千歳 1999年　石橋 2002年
猩々乱 2003年　道成寺 2007年
安宅 2017年
日本能楽会会員（重要無形文化財総合指定）

桑田 貴志（くわた たかし）
「項羽」シテ

1971年生。
（公社）能楽協会（公社）観世九皐会
三世観世喜之に師事
「桑田貴志能まつり」「茉莉会」主宰
千歳 2001年　猩々乱 2004年
石橋 2006年　道成寺 2009年
安宅 2019年
江戸三大祭り「深川八幡祭り」にて「能奉納」を勤める
シンガポールの演劇学校 ITI 能楽講師
日本能楽会会員（重要無形文化財総合指定）

中森 貫太（なかもり かんた）
「東方朔」シテ

1961年生。
（公社）能楽協会（公社）観世九皐会
三世観世喜之および中森晶三に師事
「能を知る会」「玉扇慶祥会」主宰
道成寺 1990年　安宅 1993年
翁 1995年
（公財）鎌倉能舞台 業務理事、日本能楽会会員（重要無形文化財総合指定）
慶應義塾湘南藤沢中学校高等学校講師

若竹能（わかたけのう）とは

観世九皐会当主・観世喜之門下の毎月行われる若手稽古会より発足し、研究公演として、平成５年より平成20年まで31回の公演を行って参りました。3年間の充電期間を経て、さらなる芸の向上を目指し、平成24年より活動を再開させて頂いております。
今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

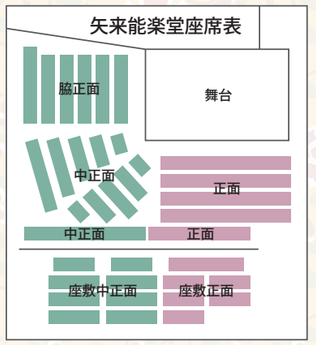
九皐会　若竹会一同

若竹能チケット料金 <全席指定>（税込）

- 正面席…… 6,600円
- 脇正面・中正面席……5,500円
- 学生券（脇正面・中正面）‥3,300円

※要学生証（26歳未満）・未就学児童入場不可

◆チケット発売中



＜2月・7月セット割引券＞
1000円引き
2月27日（日）まで発売
（矢来能楽堂のみ取り扱い・学生券を除く）

チケット申込

＜Confetti（カンフェティ）＞観劇ポータルサイトオンラインチケットサービス

■WEB予約
http://confetti-web.com/
ご予約後すぐにセブン-イレブンで
チケットが受け取れます。

2月公演　7月公演

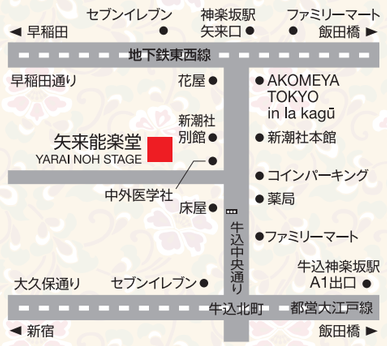
■電話予約　カンフェティチケットセンター
0120-240-540（受付時間　平日 10：00 ～ 18：00）
予約有効期間内に、払込票番号をお近くのセブン-イレブンのレジまでお持ち下さい。

お問合せ＜矢来能楽堂＞

電話：03-3268-7311　FAX：03-5261-2980
http://yarai-nohgakudo.com
ticket@yarai-nohgakudo.com

＊許可のない撮影、録音は一切禁止です。
＊記載の演目・演者等はやむを得ない都合により変更になる場合がございます。
＊許可のない録音、撮影は一切禁止です。
＊上演中、携帯電話は電源からお切りください。
＊演能やほかのお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場していただくこともございます。

主催・公益社団法人 観世九皐会



地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩2分
都営大江戸線牛込神楽坂駅A1出口より徒歩5分
駐車場はございません。近隣のコイン駐車場をご利用ください。

＜矢来能楽堂（やらいのうがくどう）＞
東京都新宿区矢来町60番地　TEL 03-3268-7311

ご来場の際のお願い

- 体調不良の方は、当日でもご来場をお控え下さい。
- ご入場の際は必ずマスクをご着用ください。
- 入口にて手指のアルコール消毒と検温にご協力下さい。
- 37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただくことがございます。
- 感染予防のため、矢来能楽堂ホームページに記載の「矢来能楽堂における感染予防措置」にご協力ください。
- 社会状況や行政機関などによる指示、各種ガイドラインの変更・更新等に伴い、内容に変更がでる場合がございます。
- 最新情報は矢来能楽堂ホームページや公式ツイッターなどでも随時お知らせいたします。
  http://yarai-nohgakudo.com/

◆二月　若竹能

令和四年二月二十七日（日）午後一時開演

（午後十二時三十分開場）

ツレ（西王母）遠藤　和久
ツレ（里人）永島　充
シテ（尉・東方朔）中森　貫太
能　東方朔 Tobousaku
ワキ（漢武帝）福王　和幸
アイ（官人）吉田　信海
アイ（仙人）大藏　教義
アイ（仙人）榎本　元
アイ（仙人）上田　圭輔
アイ（桃仁）大藏彌太郎
大鼓　安福　光雄　太鼓　林　雄一郎
小鼓　鵜澤洋太郎　笛　栗林　祐輔
後見　中所　宜夫
弘田　裕一
地謡　中森健之介　佐久間二郎
坂　真太郎　遠藤　喜久
長山　耕三　鈴木　啓吾

休憩二十分

仕舞　鶴亀　観世　喜之
邯鄲　石井　寛人
菊慈童　河井　美紀
鍾馗　奥川　恒成
地謡　長山　耕三
佐久間二郎
鈴木　啓吾
小島　英明

休憩十分

（午後三時十分頃）

ツレ（虞美人）金子仁智翔
シテ（尉・項羽）桑田　貴志
能　項羽 Kouu
ワキ（草刈男）野口　能弘
アイ（渡守）大藏　基誠
大鼓　柿原　弘和　太鼓　大川　典良
小鼓　田邊　恭資　笛　松田　弘之
後見　坂　真太郎
駒瀬　直也
地謡　石井　寛人　小島　英明
奥川　恒成　奥川　恒治
河井　美紀　永島　充

終演予定　午後四時二十分

附祝言

今回の「若竹能」は『異国探訪』をテーマに、中国・インドを舞台にした演目を上演します。

東方朔

漢の時代。武帝の宮殿である承華殿の上を、三本足の青い鳥が飛びまわっていた。陰陽博士に占によると、これは皇帝にとって吉兆であるとのこと。やがて七夕の日、武帝（ワキ）が宮殿で音楽の御遊を催していると、老翁（シテ）と若き男（ツレ）が参内し、青い鳥は西王母が訪れる前兆であると皇帝に告げる。そして西王母が持つ三千年に一度実を結ぶ桃について物語ると、自分こそは東方朔で、皇帝のために西王母を連れて再び参内することを告げ消えていく。

約束通り東方朔（後シテ）が皇帝を訪れると、続いて西王母（ツレ）が竜に乗って現れ、皇帝に不老長寿の桃の実を献上すると、管弦の曲に合わせて東方朔と共に舞を舞う。やがて陽が西に傾くと、東方朔と西王母は天上へと消え去っていった。

金春禅鳳（禅竹の孫）が作ったとされる脇能で、観世流と金春流のみ現行曲に残っている。西王母の伝説に仏教説話を合わせた祝言性の高い作品で、シテの東方朔とツレの西王母による「楽」の相舞や、間狂言では数人の仙人が西王母の長寿の桃を舐りまわすなど、珍しい演出も見られる曲。

項羽

秦帝国が瓦解し混乱の時代が続く中、覇者である項羽は天下統一の寸前まで登りつめたが、同じく覇権を狙う劉邦に追い詰められ、長江のほとり烏江の地で自害した。

時は流れ、後の時代。烏江の里の草刈り男（ワキ）が家路に帰る途中で一艘の舟に乗ると、船頭（前シテ）から船賃として一本の花を所望される。船頭が選んだ花は『虞美人草』といい、その昔この地で自害した項羽の后・虞氏（虞美人）の墓から咲き出たものであった。草刈男の求めに船頭は、かつて一度は中国全土を制覇しながらも、終には敵に攻められ自害し果てた項羽の故事を物語ると、自分こそ項羽の霊だと明かし消えていく。

そこで男が弔っていると、項羽（後シテ）と虞氏（ツレ）の亡霊が現れ、虞氏は自らの運命を悟って楼閣から身を投げ、また項羽は勇猛に戦うも四面楚歌の状況に遂に自害し果てた有様を再現する。

◆七月　若竹能

令和四年七月二十四日（日）午後一時開演

（午後十二時三十分開場）

シテ（楊貴妃）小島　英明
能　楊貴妃 Youkihi
ワキ（方士）森　常好
アイ（蓬莱山の者）善竹大二郎
大鼓　亀井　広忠　笛　藤田　貴寛
小鼓　観世新九郎
後見　河井　美紀
遠藤　和久
地謡　中森健之介　長山　耕三
桑田　貴志　鈴木　啓吾
坂　真太郎　中所　宜夫

休憩二十分

仕舞　猩々　金子仁智翔
唐船　弘田　裕一
芭蕉　奥川　恒治
天鼓　遠藤　喜久
観世　喜之
白楽天
昭君　観世　喜正
地謡　中森健之介
坂　真太郎
永島　充
桑田　貴志

休憩十五分

（午後三時三十分頃）

ツレ（龍神）石井　寛人
ツレ（龍神）奥川　恒成
ツレ（旋陀夫人）佐久間二郎
シテ（一角仙人）駒瀬　直也
能　一角仙人 Ikkakusennin
ワキ（臣下）大日方　寛
大鼓　佃　良太郎　太鼓　小寺真佐人
小鼓　飯田　清一　笛　八反田智子
後見　遠藤　喜久
奥川　恒治
地謡　河井　美紀　遠藤　和久
長山　耕三　中森　貫太
永島　充　中所　宜夫

終演予定　午後四時三十分

附祝言

楊貴妃

玄宗皇帝の寵愛を受けた楊貴妃は、安禄山の乱にて命を失う。妃の死後、絶望のあまり政も手につかなくなった皇帝は、方士（ワキ）に楊貴妃の魂のありかを尋ねさせる。やがて、蓬莱宮（死者が住まう伝説上の島）にたどり着いた方士は、そこで楊貴妃（シテ）と出会い、帝の思いの深さを語ってみせる。そして再会を証明する品として楊貴妃は自身の着けていた簪を渡すが、方士は、かつて皇帝と貴妃が人知れず交し合った言葉を頂きたいと所望する。その求めに、楊貴妃は七夕の夜に帝と永遠の愛を誓った言葉を教えると、往時を思いつつ美しい舞を舞う。やがて再び現世へと帰っていく方士。一人残された楊貴妃は、蓬莱山の宮殿にて悲しみの涙に沈む。

中国の詩人・白居易の著した「長恨歌」をもとに作られた能。優美な情感の中に会者定離の哀惜を含ませた名曲。

一角仙人

天竺（＝インド）の波羅那国の山中に住む一角仙人（シテ）は、龍神と威を争い、神通力を以って龍神を岩屋に封じ込めてしまう。その後、国には数年の間まったく雨が降らなくなった。それを憂えた帝は、絶世の美女である旋陀夫人（ツレ）を仙人のもとに送り込み、酒の誘惑をもって神通力を失わせる策に出る。やがて山中に辿り着いた一行は、道に迷った旅人を装い一角仙人に近づく。はじめ仙人は警戒の糸を解かなかったが、夫人の勧める酒と美しさに思わず心を奪われ、共に打ち興じ舞を舞う。やがて舞い戯れるうちに酔いつぶれてしまった仙人が眠ってしまうと、任務を終えた夫人はすかさず官人を引き連れ都へと帰っていく。その後、女性の誘惑に負けたことで仙人の神通力が失せると、それまで閉じ込められていた龍神（ツレ）が岩屋を破り飛び出してくる。すかさず仙人も剣を抜いて応戦するが、まんまと討ち倒されてしまい、龍神たちは喜びの雨を国中に降らし竜宮へと帰っていく。全体的に分かりやすいストーリで、童話のような面白さがある。曲中では、酒に酔った仙人が夫人の舞を見よう見まねで舞う内、隙を見ては夫人の体を触ろうとするなど、他の能には無い珍しい演出もうかがえる。